

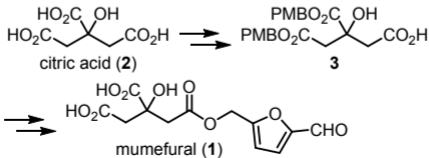
# 29Q-am06

梅エキス抽出物を先導化合物とした新規作用機序を示す抗インフルエンザ薬の開発

○加藤 裕也<sup>1</sup>, 横田 智洋<sup>2</sup>, Nongluk SRIWILAIJAROEN<sup>3</sup>, 横江 弘雅<sup>2</sup>, 鈴木 康夫<sup>4</sup>, 常盤 広明<sup>1,5</sup>, 津吹 政可<sup>2</sup> (1立教大理, 2星薬大, 3Thammasat Univ., 4中部大生命健康, 5立教大未来分子研究セ)

【目的】梅エキス抽出物の **mumefural (1)** は、増殖したインフルエンザウイルスが、宿主細胞から遊離する際に利用するノイラミニダーゼ (NA) だけでなく、ウイルスの感染に関わるヘマグルチニンに阻害活性を有する。タミフルなどの NA 阻害薬にない、感染と遊離の両方に阻害効果を示す点に着目し、新規抗インフルエンザ薬の探索を目的として、**1** の誘導体合成、並びに、構造活性相関研究に着手した。

【方法・結果】当研究室にて、クエン酸 (**2**) を出発原料とする **mumefural (1)** の合成法を確立している。本合成法を用いて誘導体を合成し、NA 阻害活性を測定した。**Mumefural (1)** のヒドロキシジカルボン酸部分の有無と活性との相関、並びに、エステル部のフルフラール単位の最適化の結果について報告する。



【文献】 1) Y. Suzuki *et al.* *Food Chem.* **2011**, *127*, 1-9.